

# 特 殊 報

長崎県病害虫防除所長

## 令和4年度病害虫発生予察 特殊報第2号

- 1 害虫名           ネギハモグリバエB系統  
*Liriomyza chinensis* Kato
- 2 発生作物       ねぎ
- 3 発生確認及び被害状況  
令和4年7月、島原地域の露地栽培ネギ圃場においてハモグリバエ類による激しい食害が発生し、葉の白化症状が認められた（写真1、2）。被害様相が、従来のネギハモグリバエの被害と異なっており、他都府県で発生が認められているネギハモグリバエB系統によるものと類似していたことから、採集した幼虫を病害虫防除所において羽化させ、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構野菜花き研究部門に遺伝子解析を依頼した結果、従来の系統（以下A系統）とは異なるB系統と同定された。
- 4 国内の発生状況  
B系統は、平成28年に京都府で初めて確認され、これまでに本州、四国、九州の33都府県から特殊報が発表されており、九州では、福岡県、佐賀県、大分県、鹿児島県で確認されている。
- 5 形態および生態等の特徴
  - (1) 形態  
成虫の体長は2～3mmで胸部と腹部は黒く、その他の部分は淡黄色である（写真3）。幼虫はうじ虫状で、成長すると体長約3～4mmに達する。蛹は体長約3mmで褐色、俵状である（写真4）。形態によるA系統とB系統の識別は困難である。
  - (2) 生態  
成虫が葉の組織内に産卵し、ふ化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表面または土中で蛹になる。
  - (3) 被害の特徴  
B系統は、A系統と同様に幼虫が葉に潜り込んで葉肉を食害し、不規則な白線状の食害痕を形成する。A系統に比べて1葉当たりの寄生虫数が多く集中的に加害するため、食害が進展すると食害痕同士が合わさり、葉が白化症状を呈する（写真2）。
- 6 防除対策
  - (1) 両系統は、形態での識別は困難であるため、ハモグリバエ類の被害を認めたら、ネギハモグリバエまたはハモグリバエ類に登録のある薬剤による発生初期の防除を徹底する。なお、薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統薬剤（令和4年長崎県病害虫防除基準P272～273の「作用機構による分類（IRAC）」参照）は連用しない。
  - (2) 被害葉及び収穫残さは、本虫の発生源となるので圃場から持ち出し、適切に処分する。



写真1 被害の発生状況



写真2 葉の白化症状



写真3 ネギハモグリバエ成虫



写真4 ネギハモグリバエ蛹

---

長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

(長崎県病害虫防除所) TEL：0957-26-0027

